

京都府企業局の水需要精査について

京都府企業局は天ヶ瀬ダム再開発（ $0.6\text{M}^3 / \text{s}$ ）、大戸川ダム（ $0.1\text{M}^3 / \text{s}$ ）、丹生ダム（ $0.2\text{M}^3 / \text{s}$ ）の暫定水利権を与えられています。他方獲得済みの水利権と取水実績は大きく乖離しており、特に桂川（日吉ダム）では浄水場の設備能力は獲得水利権の50%に過ぎません。水需要が少ないから浄水設備能力を増やす必要がないからだと考えられます。しかも取水実績は京都府企業局の府下市町に対する強引な“押し売り”でようやく達成しているのです。たとえば大山崎町は自己水源（地下水）の供給実績よりも上回る量を京都府から“押し売り”されて町民は高く不味い水を飲まされています。美味しい自己水があるにもかかわらずです。

従って京都府企業局が暫定水利権を取り下げなくても、これを放置したままでは水需要を精査したことにならないと考えます。まして京都府企業局は乙訓浄水場～宇治浄水場間、乙訓浄水場～木津浄水場間の連絡管を計画しています。持て余している日吉ダムの水を活用すればよいのです。また将来の水需要が京都府企業局に限って大幅に増大するとは考えられません。万一増大するとしても水余りの大阪市の水利権の振替を近畿地方整備局が幹旋すべきで、京都府企業局の暫定水利権を正式の水利権に認可するため丹生ダムなどを建設する根拠にすべきではないと考えます。

なお念のため水利権・浄水能力・取水実績比較表を作成しましたのでご覧ください。

以上

京都府企業局水系別水利権・浄水能力・取水実績比較表

河川名	(A) 水利権 (M ³ /日)	(B) 浄水能力 (M ³ /日)	(C) 取水実績 (M ³ /日)	(D) A-B	(E) A-C
桂川	1 0 0 , 2 2 4	4 9 , 6 7 6	3 0 , 4 4 0	5 0 , 5 4 8	6 9 , 7 8 4
木津川	5 1 , 8 4 0	5 1 , 8 4 0	3 5 , 8 5 5	0	1 5 , 9 8 5
宇治川	1 0 3 , 6 8 0	1 0 3 , 6 8 0	8 3 , 2 6 0	0	2 0 , 4 2 0
合計	2 5 5 , 7 4 4	2 0 5 , 1 9 6	1 4 9 , 5 5 5	5 0 , 5 4 8	1 0 6 , 1 8 9

(注1) 桂川は日吉ダム

(注2) 木津川は比奈知ダム

(注3) 宇治川の内訳は

天ヶ瀬ダム = 2 5 , 9 2 0 M ³ /日 (0 . 3 M ³ / S)	} 暫定水利権
天ヶ瀬ダム再開発 = 5 1 , 8 4 0 (0 . 6 M ³ / S)	
大戸川ダム = 8 , 6 4 0 (0 . 1 M ³ / S)	
丹 生ダム = 1 7 , 2 8 0 (0 . 2 M ³ / S)	

(注4) 取水実績は桂川 = H12~14、木津川 = H11~14、宇治川 = H9~14 の間の一日あたりの最大取水量

(注5) 出典は国土交通省および京都府企業局資料による